



多文化共生としての

舞踊芸術

第6回

舞踊

講師 永田 宜子 (ながた よしこ) (新国立劇場 前研修主管参事 (元舞踊チーフプロデューサー))

バレエの変遷と現在

太古の昔から人々は踊ってきました。すべての民族は固有の舞踊(ダンス)を持つといわれ、舞踊の歴史は人類の歴史と重なります。日本では、古事記や日本書紀に弟スサノオノミコトの悪戯に手を焼いて天岩戸に身を隠した天照大神がアメノウズメノミコトの踊りにより再び姿を現したことが記されています。世界では、スペインやフランスの洞窟に残された25,000年ほど前の旧石器時代の壁画に人々が踊る姿が描かれています。バレエはそうした舞踊史の中で比較的新しく、500~600年ほど前のイタリア文芸復興期に誕生しました。現在、世界の多くの国は国を代表するプロダンサーを擁するバレエ団をもち、舞台活動を展開しています。本セミナーでは、知っているようで知らなかったバレエの変遷と興隆の歴史についてお話ししながら、社会とともに人間の身体のあり様がいかに変化してきたかに迫ります。また、世界のバレエ界に共通するバレエを踊るための体・技・心に触れつつ、私が「バレエ的発想」とよぶ考え方に言及したいと思います。2021年を生きる私たちは、環境、エネルギー、感染症などの地球規模の問題に直面していますが、バレエとその歴史を知ることで多文化共生の意義や未来を切り開くためのヒントを見つけられたら幸いです。



Profile

永田 宜子
(ながた よしこ)

早稲田大学教育学部卒業。1988年から1996年まで牧阿佐美バレエ団勤務。1994年11月から3ヶ月間文化庁芸術家在外研修生として欧米8ヵ国20余の劇場やバレエ団の実情を調査研究。1996年に新国立劇場に入り新国立劇場バレエ団の立ち上げを行う。劇場開場の1997年から2011年までの全バレエ公演に係ったほか、2005年からは舞踊チーフプロデューサーとして、バレエ部門とともにコンテンツポラリーダンス部門の責任者を務める。2011年から2020年は劇場の次世代芸術家育成機関・研修主管でオペラ、バレエ、演劇の3研修所を統括。劇場外の主な活動は、日本芸能実演家団体協議会・芸能推進委員会委員(1991年)、文化庁地域文化施設の在り方に関する調査委員会委員(1995年)等で地域と劇場連携についての提言。また、東京外国語大学、武蔵野美術大学、昭和音楽大学、北海道教育大学の特別講師として、「劇場のアートマネージメント」「舞台芸術の楽しみ方」「バレエ制作現場と次世代芸術家育成」などをテーマとした講演を行っている。

2021年8月31日(火)14:00~15:30

Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語: 日本語
- 参加費: 無料
- 事前申し込みが必要です。(本学学生優先。先着受付順)
- 参加ご希望の方は、8月30日(月)17:00(日本時間)までに、右の二次元バーコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。
- ホームページからも登録できます。



http://www.tufs.ac.jp/event/2021/210831_1.html

- 問い合わせ先: nukyoko@tufs.ac.jp (沼野恭子)

予告 多文化教育プロジェクト 連続セミナー

第7回「日本の古典演劇」小早川修(能楽師)

第8回「日本の現代演劇」内野儀(学習院女子大学教授、アメリカ演劇・日本現代演劇)

主催: 総合文化研究所 / 共催: 語劇支援室